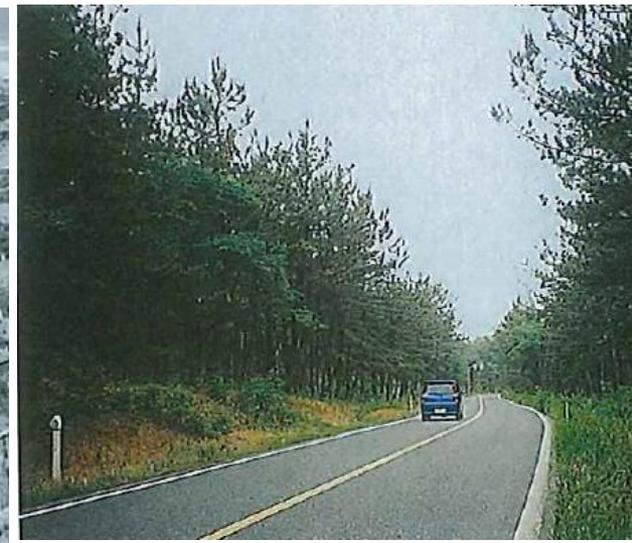


44 砂丘らっきょうをはじめとする地域産業の基盤形成に 寄与した海岸防災林造成事業

鳥取県（鳥取市）



荒廃状況

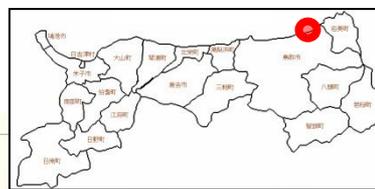
冬季の季節風により道路や農地に多大な被害が発生した。（昭和20～30年代ごろ）

施工状況

堆砂垣、静砂垣等で飛砂を防ぎ、クロマツを主林木とする植栽を行った。（昭和20～30年代ごろ）

現在の状況

クロマツが順調に生育し、背後の集落、農地、道路を保全している。



○所在場所

鳥取県鳥取市福部町大字湯山字タカハマ ほか

○施設・工法の概要

植栽工、静砂垣、堆砂垣

○解説

広大な砂丘を擁する当該地区においては、冬季季節風による飛砂と潮風の被害に悩まされ、特に飛砂による砂の移動が激しかったことから不毛の地となっていました。

飛砂防備林の造成は、約200年前から幾多の先人が砂丘克服の努力を払い実施してきたところですが、昭和25年から昭和38年にかけて、治山事業により植栽工、静砂垣等を施工し1,024haの森林を造成したことから被害の軽減が図られました。砂丘地が一変した結果、現在の砂丘らっきょうをはじめとする農業並びに地域産業開発の基盤が作られました。